

「2020年の日本の経済と投資戦略」

講師：慶応大名誉教授・東洋大教授 竹中平蔵氏

経済・政治で絶対の答えはない。問題提起をしたい。「バルコニーより全体を見る」

1) 現状

- ・「桜を観る会」の件(5200万費用)、国会の運営費(衆参、事務費で3.7億/日、10日間要した。37億の経費、問題の重要性を考慮すると、他にやることが多い。(全体を見る))
- ・ゴーンがどこに行った(コントを見ているようだ)
- ・イラン対米国、米国対中国の対峙=自制しているが、波乱含みである。

2) 2020の経済=「背中合わせ」の1年となる。

- ・米国保護主義、中国も同じ=経済を悪くする政策をとっている。
- ・米国は強気(今年は粘れる) - 竹中氏12月ニューヨークで主要な人と面談した。
- ・名目成長率=高い、名目金利。普通は同じ。財政赤字であるが、名目成長が高い(日本も同じ)
- ・米国の大統領選挙、昨年1月個人減税、2月法人減税を実施した。
- ・日本の予算102兆円(約103兆)+補正予算5兆円(真水)=実質107兆円である。大判振る舞い。小泉内閣82兆円(30%UP)財政拡大、バラマキ予算、地方へ振る舞い。

3) 世界の成長率

- ・IMFは昨年3.9%の予測→結果3.0%、今年は3.4%、日本は昨年よりUPする。0.9%→1.4%成長見通し。要素=中東、北朝鮮問題、中国はジワリジワリ低下する。背中合わせのトレンドである。

4) 2020年の戦略(何があるかバルコニーより見る事)

- ・2019年よりであるが、本当の意味では今年2020年より21世紀で、今年より始まる。
- 振り返ると1920年=第一次戦争、米国のGDPがヨーロッパ全体を超えた。日本1923年関東大震災=郊外で住む様になった。郊外より都心へ移動する。世界で初めてターミナルデパート(梅田)、1919年松下電器創業、1920年豊田(ダットサン)、地下鉄、東京⇄大阪
- ・平成の期間31年(4番目に長い)。昭和64年(世界で一番長い)、元号は世界で日本のみ。法律の大きな変化、平成2,200本、昭和は半分。平均労働時間は平成で20%減少。貯蓄率20%→今は3~4%に減少した(高齢化)。

5) デジタル技術が入ってきた。DVD、光ファイバー、インターネット、(ウインドーズ95)等

- ・インターネット、軍事で利用→生活に入ってきた。(ドイツ=2011年IOT)、
- ・日本2012年 人工知能(IA)実用化、ビックデータ、例) 出入国の簡素化3秒で通過。顔で認証出来る(NECが作成した)。トータル運営、法の規制=自動運転、ドライバー不足ニーズあり。

6) 第4次産業革命=空間管理、空間利用

- ・人工頭能IA、アリババ(例) 交通信号の最低化(20%混雑減)、救急車半分の時間
- ・引越=手続きの簡素化、1カ所で出来るように。宅配=在宅時の配達、等

7) 今年=オリンピック・パラリンピック、

- ・前回のオリンピックは戦後19年。レガシ(遺産)、セコム2人で創業→今は業界で35万人、羽田の国際化、インバウンド500万人→4000万人。物事には締め切り効果(オリンピックまで)
- ・カジノ(IR) (健全なルールで) 先進国では日本のみ未実施、

8) まとめ

- ・今年政治は動くか? 安部首相(最近面談での感想) オリンピック後退任? 早くやめる。
- ・笑顔で退任した総理=中曽根氏、小泉氏のみ。政治家は大化けする。

(2020. 1. 11. 5百人位の聴講で、資料もないので要旨のみメモ=文責: 松井俊征)